



今月のことば

monthly word

ビジネスと古典

日本弁理士会 副会長

橋本 虎之助

現代のビジネス社会はグローバル化や情報のスピード化が進んでいます。企業をみると、選択と集中、海外展開、M&A など、果敢にビジネス展開を図っている企業が目につきます。この時代の流れを敏感にキャッチして、それらに対処するハウツー (how-to) 本が次々と出版されてきます。こうしたハウツー本を手にしたとき、いつも思うのは、表題は華々しく、すぐ出来そうな錯覚に陥る文字が並ぶ。でも購入して読んでみると、中身は中途半端で表面的で「帯に短したすきに長し」。本当に知りたい詳細なことは、ふれていないものが多い。

ビジネス社会は、ビジネス領域での戦場です。私は古典が好きで、古典の解説書をいろいろ読みます。時空を超えて伝わってくる古典のことばには、戦うことの本質や、生き方等を考えさせるものがあります。

平成 27 年度は、弁理士が「知的財産に関する専門家」である使命条項が加わった歴史的出発点。弁理士はこの社会的使命を全うするために、権利化業務はもとより、知財経営コンサルティングなどの業務にもウイングを広げていくでしょう。平成 27 年度日本弁理士会の重点施策である「弁理士知財キャラバン事業」はこの大きな一歩です。知財経営コンサルティングなどの業務には、非常に厳しい競争にさらされ、容赦なく淘汰されるものもあります。正に、ビジネス領域での戦場の真っただ中に身をおき、日々戦いに明け暮れなければなりません。

このとき、戦乱の中で発達してきた古典のことばが、ビジネスという戦場での対処や生き方等にヒントを与えてくれることがあります。ハウツー本では味わえないヒントを発見できるかもしれません。

私はビジネスをしている中で心に滲みだした古典の

ことばがあります。私が読んだ古典の解説書は様々です。孫子の兵法、兵法三十六計、ガイウス・ユリウス・カエサルの「ガリア戦記」、宮本武蔵の「五輪書」、バルタザール・グラシアンの「賢人の知恵」など。

私の古典と向き合う基本姿勢は、江戸末期の長州藩の吉田松陰の「経書を読むの第一義は、せいげん聖賢に阿ねらぬこと要なり。若し少しにても阿ねる所あれば、道明あきらかならず。学ぶとも益なくして害あり」(『講孟余話』)の一文そのものです。

ここでは、「兵法三十六計」を取り上げて、背景も含めて少しお話したいと思います。

「孫子の兵法」などの「兵法」は戦乱の中で発達し、「戦わないこと」を目指す不戦の哲学です。「孫子の兵法」の作者はいろいろ説があるようで、通説では、中国の春秋時代の齊、楚、呉、越などが戦争を繰り返す紀元前 5 世紀の齊に誕生した孫武(後の孫子)です。孫武は激しい戦乱の世を経験し、戦争は国家滅亡につながる重要な危機であることを悟り、「兵法」を書いたと言われています。「孫子の兵法」のあとも、戦乱の歴史の中で兵法がいくつか誕生しました。11 世紀、宋の時代になって、国子監という役所が多くの中からの兵法の中から 7 つを選んで編纂したのが「武経七書」といわれるもので、「孫子」「呉子うつりょうし」「尉繚子りくとう」「六韜」「三略」「司馬法」「李衛公問对」です。

これら「孫子の兵法」等の兵法が、長い年月を経て大衆化して、日常生活の中に定着・浸透した行動指針こそが「兵法三十六計」です。「計」は計略、はかりごとの意味です。「兵法三十六計」の作者は不明で、成立した時期は 17 世紀、明代の末から清代初めあたりに作られたとの説があります。

「孫子の兵法」は「戦わないこと」を目指す不戦の哲学経典であるのに対し、「兵法三十六計」はわずか 138 文字で書かれた日常を生きるための行動

指針です。「兵法三十六計」は「戦わずして勝つ」が最上です。

それでは、「兵法三十六計」をいくつかご紹介します。

第1計 まんてんか かい 瞞天過海…世間をだましてうまく逃げる

第2計 いぎきゆう ちよう 囲魏救趙…真の目的を遂げるために別の場所を攻める

第6計 せいとうげきせい 声東撃西…別の場所で声をあげて敵を引きつけ、不意をつく

第7計 むちゆうしょうゆう 無中生有…何かをでっちあげる

第11計 りだいとうきよう 李代桃僵…より大きな利益のために何かを犠牲にする

第12計 じゆんしゆけんよう 順手牽羊…目の前のチャンスを逃さない

第13計 だそうきよう だ 打草驚蛇…敵に警告を発して脅す

第14計 しゃくしかんこん 借屍還魂…古いものを利用して新しいものをつくる

第15計 ちようこりざん 調虎離山…敵を不慣れた環境に誘い出して攻める

第19計 ふていちゆうしん 釜底抽薪…敵の勢いを削ぐ

第20計 こんすいほぎよ 混水摸魚…敵を混乱させ、それに乗じて攻撃する

第23計 えんこうきんこう 遠交近攻…遠い国と結んで近くの国を攻める

第25計 とうりようかんちゆう 偷梁換柱…ひそかに敵の力を奪う

第28計 じようおくちゆうてい 上屋抽梯…敵を進ませ、退路を断つてしまう

第30計 はんかく い しゆ 反客為主…軒を借りて母屋をとる

第31計 びじんけい 美人計…色仕掛けで敵をたらし込む

第33計 はんかんけい 反間計…敵のスパイを二重スパイにする

第36計 そういじよう 走为上…最後は逃げるが勝ち

[引用文献：『「兵法」がわかれば中国人がわかる』
著者 古田茂美, (株)ディスカヴァー・トゥエンティワン発行]

私は、初めて兵法三十六計を知ったとき、深慮遠謀の計略に正直驚きました。それに戦乱等変化が激しい世の中を生き抜く民衆のエネルギーのようなものを感じました。今も兵法三十六計には深く考えさせられるものもあるので、時々読み返しています。

皆様におかれましては、兵法三十六計で、何かビジネス上ヒントになるものはありましたか。もし兵法三十六計に興味がお湧きになりましたら、解説書等でさらに紐解いてください。

さいごに

厳しさを増すビジネス社会で利益を上げていくことは、益々難しくなっています。ビジネス社会では、海外の常識が流れ込み、日本の常識が通じない場面に遭遇することがあります。ダイバーシティ（多様性）の中で生き抜いていかねばなりません。このとき、古典のことばが新しい気づきやヒントを与えてくれるかもしれません。

私ども弁理士による中小企業支援等により、企業等が知財を活用し、競争力を強化し、成長を確かなものにし、わが国の経済・産業の発展に貢献するのを期待したい。

参考文献：

- ・『新訂 孫子』
訳注者 金谷治, (株)岩波書店発行
- ・『孫子の兵法』
監修者 杉之尾宣生, (株)日本文芸社発行
- ・『「兵法」がわかれば中国人がわかる』
著者 古田茂美, (株)ディスカヴァー・トゥエンティワン発行
- ・『バルタザール・グラシアン 賢人の知恵』
著者 バルタザール・グラシアン,
訳者 齋藤慎子, (株)ディスカヴァー・トゥエンティワン発行